

学校法人杉野学園
杉野服飾大学短期大学部
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

杉野服飾大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 杉野学園
理事長名	中村 賢二郎
学長名	中村 賢二郎
ALO	吉川 玲子
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	東京都品川区上大崎4-6-19

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
服飾学科		70
	合計	70

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

杉野服飾大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 6 月 24 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

学校法人杉野学園は、創立者杉野芳子が、大正 15 年にドレスメーカースクールを創立して以来、日本の服飾教育とモードの創出の先導者の役割を果たしてきた。昭和 25 年に短期大学制度の発足を機に、杉野学園女子短期大学を開学した。その後、杉野学園女子大学創設や男女共学化を経て、現在は杉野服飾大学短期大学部に名称変更している。

建学の精神・教育理念「挑戦（チャレンジ）の精神」、「創造する力」、「自立（自己実現）する能力」は、教育活動全般の基盤として明確に示され、学内外に周知されている。教育課程は、多くの教養科目を開講し幅広い教養が身に付くように配慮し、専門科目では、教育目的である「ファッション界で活躍できる人材」の育成を目指し、1 年次には基礎的知識と技術を幅広く修得させ、2 年次には 3 コースに分けて教育するための教育課程編成がされている。

ファカルティ・ディベロップメント (FD) 研究委員会のもとに、授業評価や教員間相互の授業参観が実施されており、授業改善への前向きな取り組みがされている。自己点検・評価活動については、規模が小さい特色を生かして全教職員が取り組む体制を確立している。

専任教員数や校地・校舎の面積は、短期大学設置基準に定める基準を充足している。特に、服飾関係の教育機器は、最先端の機器が充実している。図書館は、服飾関係の貴重書等の蔵書が豊富で、それに特化した日本有数の図書館として独自性を打ち出している。

学生支援体制については、入学前に創立者の自叙伝に関して読書感想文を提出するなどの課題を課し、入学後はクラス担任、副担任の相談体制をとり、卒業時には教職員が一体となって進路支援を行っている。その結果、専門就職者の割合は非常に高い。

教員の研究活動は、「紀要」や「教員研究作品集」も毎年刊行しており、おおむね適切に展開されている。社会的活動は、学科の特色を生かした地域ぐるみの各種行事を企画・開催し、地域社会に貢献している。

学校法人の管理運営及び、学長のリーダーシップ、教授会のほか各種委員会等の運営等、当該短期大学の管理運営はおおむね適切である。財務に関しては、「杉野学園中長期計画」を策定し、その諸取り組みによって財務の健全化の努力が行われている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

○ 基礎学力が不足する学生に対しては、必要に応じ、授業終了後や土曜日にサポート授業を実施している。また進度の速い学生に対しては、技術力に応じ、難易度の高い作品を制作させることでスキルアップを図るよう指導している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

○ 当該短期大学は服飾教育とモード創出の先導者としての役割を果たしている学園であり、編み機、大型コンピュータプリント機などのファブリック関係の最先端機器が、教育機器として整備されている。

評価領域Ⅴ 学生支援

○ 学生支援の一環として、画像でつづる学生生活の記録作りを実施している。2年次には委員を決めて、個性豊かなアルバム作り、感動的なパーティー企画の自主運営を任せている。また、1年次から、入学から卒業までの学生自身の学生生活の記録を、写真やビデオ撮影、また絵でつづるファッションポートフォリオ制作を実施している。その制作を通じて、楽しさが意欲につながり、学生が学習のみならず2年間の学生生活を十二分に謳歌できるように、全教職員が支援している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善ができれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 教授会は、学則の規定において「学長、教授、准教授および専任の講師をもって組織する」とあるが、実際の教授会はその一部を除いた構成員で開催されているので、規定に則して開催する必要がある。

評価領域Ⅸ 財務

- 学校法人としては負債があるので、財務改善計画に従って、着実に実行することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育の理念は、創立者の足跡の上に立ち、かつ未来を志向して、「挑戦(チャレンジ)の精神」「創造する力」「自立(自己実現)する能力」と明確に掲げられ、学内で共有化された。それらは、学生便覧、大学案内、ウェブサイトなどを介して学内外に公表している。

教育目的・教育目標は、社会や学生の気質の変化に応じた見直しや、自己点検・評価を実施する度に見直しや点検を行っている。現在の教育目的・教育目標は、「知識・技術・感性を養い、ファッション界で活躍できる人材」と明確に示されている。それらは、教職員に対しては教授会や各種委員会等でコンセンサスを得るように図り、学生に対してはオリエンテーションにおいて周知するよう努めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育目的である「ファッション界で活躍できる人材」を育成するため、1年次に服飾造形の基礎として必要な知識と技術を幅広く修得させ、その基礎教育の土台の上に、2年次には服飾造形を中心とした三つのコースに分けて教育する教育課程が体系的に編成されている。教養科目においては、多くの科目が設けられ、幅広い教養が身に付くように配慮している。

授業計画(シラバス)は、授業の方針・概要、到達目標欄と授業計画、授業時間外の学習、成績評価の方法及び教科書、参考文献で構成され、授業の概要を示す十分な内容となっている。学生の多様なニーズにこたえるために、アンケート調査、面談等を行い、授業内容・教育方法の改善に役立てられている。また、FD研究委員会の下に、

専任教員間相互の授業参観を実施しており、授業改善へ前向に取り組んでいる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

短期大学設置基準の教員数を充足している。助手、補助職員等は十分に確保され、教育活動等に機能している。教員は、平均年齢はやや高いが、ふさわしい資格と資質を有しており、教育面や指導面において非常に意欲的に取り組んでいる。採用、昇任の選考基準等も整備されている。学生指導をより効果的にするために、クラス担任制をとっており、1年生には教養教育の教員が担任となり、さらに2年生のコース主任が副担任を務めている。

校地、校舎の面積も短期大学設置基準の規定を十分に満たしている。服飾関係の教育機器は、最先端の機器も数多くみられ充実している。図書館は、服飾関係の分野における貴重書等が豊富に備えられており、それらに特化した日本有数の図書館となっている。学内にある日本初の衣裳博物館は、西洋衣裳など約1,400点に及ぶ資料を収蔵しており、教育・研究上の貴重な施設である。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

卒業後、専門分野で活躍できるように実践的な教育内容を教育課程に盛り込み、高い教育目標を設定している。しかし、全入時代を迎えた昨今においては、すべての学生がその教育課程を十分消化し、設定された目標に到達することに困難を抱えている。それは単位の修得状況において取得率が低いことから明らかである。こうした状況を踏まえて、教育内容の精選、教育目標の見直しを検討しようとしている。また一方では、早い段階で出席状況をチェックし、学生をサポートできるように教職員全員で取り組んでいる。

卒業生を対象にした調査が実施されており、調査結果を今後の教育に生かそうと努力している。また卒業間近に学生生活アンケート調査を実施し、それらの結果は全体的に高い評価結果になっており、卒業予定者は学生生活に満足している。

評価領域Ⅴ 学生支援

大学案内には建学の精神などがうたわれ、受験生に対応するため、入試事務の体制が整備されている。新入生のオリエンテーションでは教育課程の内容などの説明を理解しやすいように行っている。

学習支援のための印刷物としては、学生便覧、履修要覧（シラバスを含む）、学生手帳などを配布している。基礎学力が不足する学生に対して、授業終了後サポート授業を実施し、また土曜日にも希望者に対しサポート授業を行っている。

生活支援には、学生部学生課と学生サポート連絡委員会があたっている。学生のキャンパス・アメニティには、談話室、イートイン型コンビニエンスストア、購買部があり、学生寮、医務室、学生相談室も適切に整備されている。就職支援は就職部就職

課があたり、就職ガイダンス、就職対策テスト、合同企業説明会を実施している。

評価領域Ⅵ 研究

教育・研究の成果を発表する場として、「杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部紀要」と「杉野服飾大学・同短期大学部教員研究作品集」が毎年刊行されている。「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」等への申請には積極的に取り組んでいる。

学内には研究奨励補助金制度があり、申請方式で、個人研究において上限 30 万円、共同研究において上限 50 万円が支給されている。平成 18 年度から研究奨励補助金を受けて、コンピュータプリントを利用した新しい服飾造形技術の研究を進めてきており、その成果は授業で学生を指導する際に役立てられている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

杉野学園が連綿として取り組んできた服飾教育の成果を社会人及び地域に貢献する意義は大きいと認識しており、品川区教育委員会との共催で「杉野学園公開講座」を開講し、正規授業の開放等に関しては「フォーマルドレスプログラム」を開講している。また、全国の高等学校の家庭科教員向け講座「服飾造形夏期セミナー」も開講している。

学生の社会的活動では、通学路の清掃をはじめ、大学祭のバザーでの売上金や募金活動の義援金を地震被災地に寄付などを行っている。

国際交流・学術交流への取り組みの努力もみられ、イギリスの U C C A 芸術大学への夏期短期留学と、ヨーロッパファッション研修旅行を実施し、また、平成 19 年度にモスクワ国立繊維大学に教員 1 人を 10 日間派遣している。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人の管理運営は、理事長のリーダーシップの下に、寄附行為の規定に基づいて適切に行われている。理事会の開催や、監事の業務監査と財産の状況監査等も適切に機能し、評議員会は、理事会の諮問機関としての職務を果たしている。経営面の諸問題から、教授会等で提示される教育・研究活動に至るまでの諸問題の検討・協議も、学園全体の細部にわたるところまで把握することができる体制にあり、遅滞なく問題の解決に当たっている。

また、事務組織に関しては、諸規程が整備され、職員は各々の規程に基づく所管業務の範囲と権限に基づき業務の執行に当たっている。

評価領域Ⅸ 財務

理事会の予算方針に基づき適切な財務運営が行われている。経営の状態は、学校法人全体、短期大学部門とも過去 3 ヶ年にわたり均衡しており、収入超過の状態推移

しているが、流動比率（流動資産/流動負債）が 100 パーセントを下回っており、また、学校法人の規模に比べて借入金が多い。これに対して、中・長期の計画を策定し、教職員に周知徹底して、目的の達成に向けて教職員一丸となって取り組んでいる。監査法人による会計監査により計算書類関係も適切な表示と認められ、監事と監査法人との連携もされており、監査意見への対応も適切と認められる。

学園の施設設備は、中・長期計画に基づき、一部建て替えを計画している。そのため、手元資金の一部を大学校舎新築特定資金及び施設充実引当特定資金として引当資金化している。

評価領域 X 改革・改善

平成 4 年に「自己点検及び評価」の条項を学則に加えている。平成 12 年併設大学と合同の自己点検評価委員会を設置し、「自己点検・評価報告書 2000」を発行した。その後、「自己点検・評価報告書 2006」を発行した。今後は、定期的に自己点検・評価を行う予定となっており、専任教職員全員が参加する自己点検・評価活動の実施体制が確立できている。

自己点検・評価活動を通じて、建学の精神と短期大学の基本理念及び使命・目的の明確化を図り、教員相互の授業参観等を推進し授業の改善につなげる努力をしている。

相互評価に関しては、実施には至っていないが、相手校の検討をしている。